

一九二〇年代の中国

狭間直樹編

汲古書院

# 一九二〇年代の中国

—京都大学人文科学研究所共同研究報告—

狭 間 直 樹 編

汲 古 書 院

## まえがき

一九二〇年代の中国はまぎれもなく、かなり輪郭のはっきりとした一つの時代相をもっている。

どの十年期もそれなりの時代相をもっていることは否定できない。しかし一九二〇年代のそれは、ヨーロッパ大戦（第一次世界大戦）という人類史上に未曾有の世界的規模での破壊、殺戮の経験と深く結びついていたという点で、きわだった特色をもつものであった。このとき、それまで世界をリードしてきた西洋近代文明にたいして、懐疑と反省が洋の東西でこもこも生みだされたのである。有名なウイルソンの十四カ条のうちに盛られたいわゆる民族自決主義の公理に基づく戦後新秩序建設の呼びかけも、そのような時代精神の一つのあらわれと受けとめられたものであった。くわえて、民衆の解放をうたったロシア革命によって突きつけられた希望と恐怖がそれに錯綜した。いまとなつては想像しにくいことなのだが、帝国主義全盛の時代にあつて、被搾取階級、被抑圧民族の利益を代弁してインターナショナルな理想社会を創設するとの「共産主義」の主張をかかげた政権の登場は、それを信奉するものにも、またそれを仇視するものにも衝撃そのものであった。中国でも戦後の新思潮はナショナリズムの形をとつて噴きだし、それがすぐさまコミュニズムと複雑に絡み合うことになったのである。

一九二〇年代は、そのような意味合いだけからでも、新しい時代としてのもろもろの可能性を秘めていたといえる。しかもこの十年期は、あとにつづく三〇年代が前よりいっそう破滅的な大戦へと急坂を駆け落ちるかのごとき時代であつたのと対比すると、まぎれもなく相対的安定期ともいふべき側面を持っていた。新しい時代に内包された望まし

い芽ぶきの多くが、いろいろな形をとって現れた全体主義によって暴力的に押しつぶされ、第二次世界大戦へとながれこんでいったわけである。天折した嬰兒をいつくしむかのような雰囲気をただよわせた「一九二〇年代」をテーマとする特集が、雑誌などでよく組まれる所以であろう。

中国のばあい、一九二〇年代の幕はパリ講和会議の決定にたいする異義申し立てとしての五四運動によって切つて落とされた。アヘン戦争いらいの度重なる対外戦争においてこの大戦ではじめて戦勝国の側に立った中国では、民族自決のことがらの自然として、ドイツに奪いとられていた山東権益返還の期待が広まったのである。しかし周知のように、会議が権益の日本への譲渡を決定したことにより、それに抗議する青年学生を中心とした破天荒ともいべき大衆運動がおこり、この五四運動により中国の民族的覚醒は新たな段階にはいったのであった。

そして二〇年代の幕引きもやはり日本によって演じられた。日中十五年戦争の開始となった一九三一年の「九一八」満州事変がそれである。隣接する大陸に「發展」の場を求めたからには、当然といえば当然のことながら、始めにも終わりに日本がふかく関わったのである。この間の山東出兵、済南事件が国際的な戦争という面を持たないではないが、いまから振り返るなら、それでも二〇年代の中国はやはり相対的に「安定期」にあったと言える。しかし逆にその分、国内的には内戦に充ち満ちた時代だったのである。

二十世紀の歴史を振り返ってみると、世界的な帝国主義戦争とそれに付随する侵略戦争がなりを潜めているときには、たいてい地球上のどこかで激しい内戦がおこなわれているものである。そのさい他国での内戦を陰に企図し支援する外国勢力が存在することは否定されるべくもないが、それ相応の内的な条件が成熟すればこそ、その時その地で内戦が起るようになったのであった。ヨーロッパに匹敵する境域、それをはるかに上回る人口を擁する中国は、中華ないし中国というゆるい枠組みによって束ねられているという意味ではたしかに「国」それも「大国」であった。

しかしそれはけっして近代的な国民国家ではなかったのであって、数えようによっては千以上もの（県の数は二千以上である）、各レヴェルで統属連合しあい、また対立抗争しあう大小の軍閥が興亡をくりかえしている「国」であった。したがって二〇年代の中国は、ある意味で帝国主義段階に特有の性格を付与された一種の戦国時代であったといえよう。

この中国が一九二〇年代において、国際的にも通用し国内的にも完備された国民国家の内実を確立すべき時機に際会したのである。かくして軍閥間の内戦にかえて、国民国家形成にむけての内戦である国民革命軍の北伐戦争が国内政治の焦点となった。中国の「シヴィル・ウォー」と言つてよいだろう。北伐はいったん成功し、北京の軍閥政府にかわる南京の国民政府の登場をみる。しかし国民国家の成立にはほど遠く、国民党内各派間また国共両党間において、新しい色合いを帯びた、いっそう激烈な内戦が戦われることになったのである。

内戦の悲惨は覆うべくもないが、それにもかかわらず一九二〇年代の中国の社会の各層面、歴史の各事象にはなんととはなく、突つけば弾きかえされるような生き生きとした魅力がただよっている。おそらく、時代の「朝氣」の進りといったものなせる技なのだろう。この中国の二〇年代の諸側面を捉えるべく、われわれは「一九二〇年代の中国」共同研究班をつくり、一九八八年四月から一九九三年三月まで、それぞれにテーマを立てて研究をおこなってきた。それらのうちから九篇を選んで編んだのが本書である。

以下に各篇の内容について、簡単にふれておく。

狭間論文は、国民形成の過程とからませて国民革命をとりあげる。孫文が中国国民党を率いてコミンテルンの中国支部である中国共産党と「合作」したのは、中国民族の自立と国民国家の形成を目指してのことであった。その目論見は当たり、かれの死後、北伐に勝利し国民革命の目標の対外的な面は基本的に達成される。しかし蒋介石による国

民政府支配の確立は、国民の党を標榜する国民党が階級の党を称する共産党を肅清することによって達成されたものであって、対内的な民権の欠如（すなわち一党独裁）と表裏をなしており、当時の中国における国民の形成の度合に对应的なものだったのである。

菊池論文は「国民会議」をとりあげる。中華民国の成立とともに設けられた国会はその後、のたれ死に同然になってしまったので、孫文は新たに国民会議の設置を唱えた。諸政治勢力がこの主張にどう対処するかは、国民主権にたいする態度表明の意味をもったが、民意重視をいかに宣伝するものも、権力を掌握するとともに変質した。孫文の正統な後継者として国民会議を開催せざるをえなかった蒋介石は「訓政約法」とセットの一党独裁の道をえらび、一方、反対派は民主、自由をもとめる運動として真の国民会議開催を要求した。本論は陳独秀を軸としたため、中国のトロツキー派の動向をも知りうるものとなっている。

石川論文は、一九二二年の反キリスト教運動をとりあげる。かつての「教案」などのキリスト教反対が異教の侵入にたいする反対だったのにたいし、このときのものは「懐疑」の時代としての新文化運動が掲げた精神、すなわち宗教にたいする「信仰」そのものを科学の立場から批判するという角度から取り組まれた。しかしその結果は、いとも逆説的に、宗教への信仰を非とするというもう一つの「信仰」をもって替えるにとどまった。かくして二〇年代は「信仰」の時代との様相を持つことになるが、この理論信仰とも言うべきものが後の歴史に与えた影響の大きさは計りしれない。

江田論文は、新文化運動の時期の時代精神を象徴するものとしての民主主義を国民党、共産党を中心にとりあげる。国共両党は変革のために民主主義を共通の理念としてかかげた。しかし両党はともに「以党治国」の党であり、党内民主主義の制度は民主集中制である。それは現実には上級の独裁を結果するしかないにせよ、それでも瞿秋白の時代

までの共産党には、まだ民主と見られるべきものがあつた。やがてそれさえ消滅することになるのだが、国共両党とも二〇年代の実践の帰結がのちの蒋介石の国民党支配、毛沢東の共産党支配のもとでの民主主義の行方を決定づけたのであつた。

中村論文は、上海の孫中山故居の蔵書目録の再編作業を踏まえて、孫文の教養の基礎がハワイでのアメリカ教育にあることのみならず、かれの思索の内面に置ける親アメリカ的な文明観の成熟のありようを実証的にとりあげる。

『実業計画（物質建設）』(*The International Development of China*)の基底にある経済学の次元での思考が、アメリカの制度学派の形成過程と並行的に出来上がっていくこと、最晩年の孫文が公共財政、住宅問題、食糧供給等において、霸道としての政治力ではなく、王道としての経済力、即経済学の学理の探求による民衆の生存問題の解決を追究したことを述べ、孫文が日本とアメリカの知識人界の架橋者であつたことに注意を促している。

森論文は、中国国民経済の初歩的形成が人口論の学理的な展開にあたえた影響をとりあげる。清末以来、主流を占めた進化的論の人口論は中国の民族の自立を課題としたのにたいし、一九二〇年代には国民経済の観点からの人口論の登場をみた。その主役を演じた馬寅初はアメリカ経由でドイツ歴史学派の国民経済学説を学んだ。当のドイツでは階級問題を契機に新歴史学派はマルサス肯定に転換し、旧歴史学派の反マルサスのな人口論を継承したマルクス主義と分岐したが、馬のばあいは日本との民族問題がマルサス人口論に接近するモメントとして作用した。このような人口論をめぐる位相のずれも、二〇年代中国の時代相の一面をうつすものである。

岡本論文は、財政、金融とくにその信用の角度から内債問題を取りあげる。イギリス人が握る総稅務司は、国家財政の確実な財源である関稅收入を押さえることにより金融市場の信用機能を掌握していた。二四年の「公債風潮」を機に、国民政府と浙江財閥はその回収をはかる。その動きの一つの帰結として、北京政府が總稅務司アグレンを罷

免し、南京の国民政府が上海税関附加税の保管委員会を創設し、その結果として財政金融の内債面での基本的自立を達成する。北伐を完成した国民政府はやがて関税自主権を回復し、日本に遅れることはば三〇年にして不平等条約の一部を撤廃することができたのである。

村田論文は、中国における近代文学確立の一側面をとりあげる。対象は馮文炳の『竹林的故事』であり、またそれと関連させられた、読書三昧の文人とのイメージを定着させつつある周作人である。「人生のための文学」を旗印とする文学研究会の周作人は、五四時期には下層民に同情し社会主義に共鳴する人道主義思想と、個性の独立と自由を尊重する個性主義、自由主義思想との間に立っていた。五四の「雜貨屋」としての周は、そのはざまに在って理想主義的で過激な空想的社会主義を捨てて、日本にくらべて一時代の差はあるが、個性主義、自由主義に支えられた「個人本位主義」を發展させ、その影響下に郷土文学が成立することになる。

生駒論文はモンゴル史の研究であるが、モンゴル民族解放運動を中国での第一次国共合作の展開と関連させてとらえる点で「一九二〇年代の中国」の研究でもあるのである。一九二五、二六年のころのモンゴル人民革命党内では、ソ連の政策を「赤い帝国主義」とみる見方が流布しており、ダムバドルジは国民革命の中国と連合してモンゴル社会を着実に変革していくことを構想していた。スターリンはこれを「民族主義」的ときめつけ、留学生を利用して「左派」のチョイバルサンに代える。しかし左派が第一次五カ年計画に失敗した後にとった「新転換政策」はダムバドルジ政権の政策そのものだった。モンゴル人からすれば、「体裁の好い侵略主義」としての三民主義にも反発を感じていたが、スターリンの統御はより強烈だった。指導者の首の御都合主義的すげ替えは、まさに中国での陳独秀らを右翼偏向として追放したのと、その軌を一にするものであった。

見られるとおり、課題の豊かさにくらべるなら、取りあげたことは、これだけとあまりに少ない。また慎重を旨



として執筆にあたったが、なお多くの誤りを犯しているであろう。読者諸賢の万般にわたる御批正をお願いするしだいである。

研究班員として五年間におよぶ研究会で報告していただいた方は、執筆者のほかに小野信爾氏をはじめ三〇名におよぶ。各位にはほぼ毎年、研究成果の報告をしていただいた。またその間に外国から来所された方々のうち、楊天石氏をはじめ二〇名の方に研究会で講演していただいた。『東方学報』（第六一―六六冊）の「彙報」欄に記録を載せてあるので、ここに一一お名前をあげることにはしないが、各位に深く感謝する。なお索引は、執筆者各人がとった項目を、石川氏が整理にあたり、森氏がそれを助けてくださった。最後に、この論文集の刊行を快く引き受けてくださった汲古書院の坂本健彦氏に深く感謝する。

一九九五年七月

狭間 直樹

目 次

まえがき

国民革命の舞台としての一九二〇年代の中国……………狭間直樹

「国民会議」を巡る政治力学

——一九二〇年代から三〇年代への運動……………菊池一隆 33

一九二〇年代中国における「信仰」のゆくえ

——一九二三年の反キリスト教運動の意味するもの……………石川禎浩 67

一九二〇年代の民主主義——国民党と共産党を中心に……………江田憲治 97

一九二〇年代と孫文にみるアメリカとの共生志向……………中村哲夫 127

人口論の展開からみた一九二〇年代の中国……………森 時彦 159

一九二〇年代中国の内債問題……………岡本隆司 187

『竹林的故事』の周辺——周作人と馮文炳……………村田裕子 223

ダムバドルジ政権下のモンゴル

——第一次国共合作とモンゴル民族解放運動……………生駒雅則 259

索引

(逆頁) 1

一九二〇年代の中国

## 索引

## 凡例

1. 項目は各論文の著者が一定の制限の枠内において、各自の判断にもとづき選択した。したがって項目の立て方は網羅的ではなく、各論文ごとに若干のバラツキがある。
2. 字面のわずかな相違は無視して、合併して一項目にまとめたものもある。
3. 配列は五十音順（国語辞典方式）である。促音、拗音なども一字として扱い、長音は先行の母音に従った。
4. 項目の読みは、日本語読みを基本としたが、上海＝シャンハイ、広東＝カントンなど、中国語読みが慣例になっているものは、これに従った。
5. 数字のあとにfまたはffとあるのは、それぞれ次のページ、またはつぎの2ページ（もしくはそれ以上）にも、その項目がでてくることを示す。

あ 行			
		アルタンオチル	277
		アルポート	141
		暗記券	203
アイルランド移民	167	安徽派	261,273
赤い帝国主義	280,292, 299	晏陽初	72
アグレン	189～221	イースト	140f
新しい村	241f	イギリス外務省	188
阿妹	232ff	石井・ランシング協定	152
天羽英二	150f	イシドルジ	271
——日記、資料集	158	遺囑継承宣言	39,58
アマガーエフ	279,289f	市川信也	7
アメリカ	128f,142ff, 147,149,151ff,155	一国社会主義	266,283
——制度学派	171	以党治軍	22
——の連合目録	130	以党治国	27
アモル	265,267,289,292	伊徳欽	277,281
阿頼耶識論	229	井上謙吉	150
アルタイ・ウリヤンハイ	264	井上辰九郎	183
		イングラム	183
		インディペンデント	145
		ウイリアム	142,152
		ウィルソン	29
		内モンゴル人民革命党	273,275,277,280,282
		雨天的書	241
		于右仁	277
		右翼偏向	260f,265,269, 272,283,287,289f,292
		ウランフ（烏蘭夫）	277
		ウンゲルン	263,270
		惲代英	70,85,89,100
		エルバノフ	279
		煙酒税	191,216
		塩税	216
		——余款	191,193,195, 216
		袁世凱	188,201
		——銀元	218
		王敬軒	67
		王光祈	71
		汪精衛	11,22f,27,47,59,

2 おう～け

	75,106f,111f,114ff,
	119,184
王星拱	75
王造時	56,59
翁文灝	179
汪鳳藻	162
王魯彦	224,238,251
大隈重信	166

か 行

カーメネフ	298
海外新声	73,91
海関	188,206,218
——銀号	206
会議通則	101,104f
階級闘争説	12,20f
階級矛盾	178
外国銀行	195,205ff,209
外債	187f,193,196,216
外資導入	172f,175
改組派	34,43,47,59
何応欽	48
何其芳	228,230
樂景濤	277,280
郭道甫	276f,280f
革命勢力統一案	24
華工雜誌	72
家事遺囑 (孫文)	134
貸付	201,203f
河上柳	232f,235
火神廟的和尚	232f,235

片山潜	267ff
家庭観念	178
カビグリア將軍	145
萱野長知	132f
歌謡研究会	242,246
空売買	199,204
カルムイク	264
何魯之	71f
河上肇	185
浣衣母	232f,235,237
漢口租界回収	18
ガンジー	29
関税特別会議	206ff,211
関税保管庫	208f,212
カントリー夫人	145,149
広東政府	196f,218
関余	149ff,191～207,216
機械製綿糸	4
基金委員会	212f
奇子俊	280
岸田吟香	182
魏嗣鑿	71
キッド	183
キャフタ協定	276
旧人	267
恐慌 (一九二三年)	175
共産主義青年団団員数	15
共産党弾劾案	108
嚮導	13
協同組合	268,272,278,
	283
郷土観念	178

郷土研究	246
郷土文学	224,238,249ff
去郷	232f,236
許欽文	224,251
極東革命青年大会	80
極東共和国	262,279
極東諸民族大会	80
金永昌	277
金家鳳	74
銀号	201
銀行界	189,193,205,211
勤工儉学	72f
銀拆	192,199,203,207f
金融	189,192,197f,205,
	210f,213ff
——市場	203f,206,209
虞洽卿	148
瞿秋白	41,108,116,120
クチェレンコ	262
クリスマス・メッセージ	211ff,221
クロムウエル	84
訓政綱領	27,50
訓政約法	34,48ff,54,57,59
群治	84
軍閥	197,265,272,276f,287
ケアリー	167
計学家	163
京報	73
ケマル	29
ゲムバルシェフスキー	262
ゲリクセンゲ	265,287,289



4 さ～しん

サジ・ラマ	263	鷓鴣	232ff	シュルマン	149
左翼偏向	259ff,289ff,294	謝持	20,22	招隠集	230
山中雑信	242	ジャス・カンパニア	290	小河	227
三民主義	8,10,18f,21, 26f,85,87,131,141, 152,165,285f,300	ジャダムバ	267,280,289	蒋介石	22f,27,34,47ff, 51f,54,57ff,114ff, 118f,124,153,214, 280f,286
史桂陸	72	ジャムツァラーノ	262f, 272,279,287,294,299	商業界	193,197f,205, 210f,213f
四国借款団	147f	沙面事件	150	証券交易所	192
自己的園地	241,243,246, 248	ジャルハンズ・ホトクト	264	証券市場	203f,206
シジェー	289,291	上海		省港罷工	211
時事新報	73,78,81,83	——華商証券交易所	202	章士釗	87f
自然の吝嗇	167	——銀行公会	208f	小説月報	252
施存統	79f,83	——商業儲蓄銀行	208	蕭楚女	85
自治取消	261,273,276,	——総商会	196,206ff, 210	少年阮仁の失踪	232f,239
実業計画	132f,147ff,157	——孫中山故居蔵書目録	130,136,138,154f	少年中国	69ff,83,89
実質5%税率	206	——ブルジョアジー	214	邵飄萍	16,73,75
シネラマ (席尼喇嘛)	276	ジャンボロン	282	章炳麟 (太炎)	16f,20
ジノヴィエフ	266,298	収獲通減の法則	167	蕭瑜 (旭東, 子昇)	72f,75f
シベリア出兵	129,151ff	十月社	45	剰余価値学説	160
資本万悪	174	周作人	74,224~257	ジョージ, ヘンリー	143,167ff,180,185
ジャーニガン	136ff	周太玄	71f,75	女権運動同盟	76
——コレクション	140,155	集団化	268,288,290f	徐樹錚	261,276
ジャー・ラマ	264	自由・平等・博愛	8	白樺派	242
社会建設	131	祝福	235	親アメリカ	129
社会史観 (The Social Interpretation of History)	152	朱執信	75,157	辛亥革命	193
社会主義青年団	74~83	出産運銷二五特税	211	沈啓无	230
社会と教育派	53	出産運銷物品内地税	211, 213	人権派	53
シャグダルジャブ	262f	シュミヤツキー	262	信仰	67~94
		シュメラリ	287,289	人口	

——増加の算式	172	287f,291f	先知先覚	128	
——包容力	178ff	ストルイピン	272	戦闘社	45
相対的な過剰——	180f	ストロング	271	曾琦	52f,59,69,71
都市——	5,12	スヘバートル	262f,267	宋慶齡	56,134ff,140,144,
人口論	159～186	スミス, アダム	161		152
経済的——	167～173	スルタン・ガリエフ	286	草原野党	284
進化論——	161～166	清華学校	69,73	総合平衡論	181
マルクス主義的——	181f	政権	8	総務司	189～215
信交風潮	193	西山会議	113,118f	創造社	223
沈從文	231,238,251f	——派	20f,23,27	莊票	203
新人	267	生産額遞減説	172,174	総理制	106f
新世紀	72	清党	21f,27	ソコピン	263
新青年	67f,174,225,242	制度学派	143,154	ソビエト	41ff,46,54f,58
信託公司	193	青年学生の隊伍	13	ソビエト・ロシア	128f,
新転換政策	261,289～292	青年進歩	73	150ff,261f,264,273,278	
新文化運動	68f,74f	世界キリスト教学生同盟	69,73,77f,80	ソ連共産党	129
	77,84f,90	世界市場	4	ソロコヴィコフ	262
新聞報	5	赤化	10～19	孫中山故居	129f,134ff
晨報	73,76	浙江財閥	214f	孫中山年譜長編	140,156
進歩と貧困	168	節制資本	9	孫伝芳	14,16
新マルサス主義	170	セミヨーノフ	276	孫伯淳	185
新民学会	72f	セリグマン	171,173,177f,	孫文	6～14,19,27,34f,
信用	192,198,205,208ff,		184	37ff,45,51f,58ff,85,98ff,	
	212,214	先駆	79f	106f,109ff,119,122,127	
心理建設	131	錢玄堂	67	～158,165,197,218,277,	
神話と伝説	246	善後会議	40	285	
水辺	230	全国銀行公会聯合会	190	——遺囑	6,39
鄒魯	20,22	全国財政会議	214	——学説	131f,135
鈴江言一	19	善後借款	216	——研究会	155f
スターリン	41,45f,104,	錢莊	199,201,203f	——主義	20
	120,261f,266,283,	浅草社	227	——逝去一周年記念会	
				(上海)	17



6 そん~ちょう

——大アジア問題講演	153
——追悼会(濟南)	13
——追悼会(沙市)	7
——追悼会(ニューヨ ク)	29
<b>た 行</b>	
ダーウィン	162ff
大英博物館	149
——の目録	130
戴季陶	12,16,20,22,87, 111
太原約法	47,49ff
大国主義	283
第三党	34,43,51,59
大民族主義	283
兌換券	203
兌換停止令	201
ダムディンスレン	275
ダムパドルジ	259~292
ダムビジャンツァン	264, 275
譚延闓	115,117f,124
段祺瑞	6,40,87
ダンザン	261ff,265ff,287
談新詩	225,230
タンヌ・ウリヤンハイ	279,282
担保	188,193,196f,203
チェレンドンロブ	276

竹林的故事	224~251
——序(周作人)	247,250
——序(馮文炳)	232,236
治権	8 f
地政学院派	179f
地代論	161
知難行易説	132
地方与文芸	249
中央銀行	212
中央財政会議	214
中華革命党	100
中華党国	28
中華民国国父実録	156
中華民国臨時約法	35
中共左派反对派	56
中原大戰	47
中国共産主義左派反对派綱 領	45
中国共産党	68~87,286
——党員数	15
——二全大会	274
中国銀行	189f,201,203, 205,209,215
——券	201,203,218
中国経済改造	177
中国国民党	21f,75,87,211, 285f
——党独裁	34,51ff,59
——一全大会	10,99,105
——二全大会	21
——二期二中全会	24
——二期三中全会	22

——党員数	15
——監察委員会	108f,114
——常務委員会	113ff, 124
——常務委員会主席	115ff
——政治委員会	25,108, 112ff,124
——政治会議	115ff,124
——中央執行委員会	104~118
——土地委員会	24
——臨時執行委員会	105,111
——規約	101
——章程草案	104
——総章	106,113
中国人口論	170
中国青年党	53,71
中国屠富	168
中国における狩獵 (Shoot- ing in China)	139
中国之大患	36,38
中国のマルサス	161
中国民権保障同盟	56
中山艦事件	114,116
中東鉄道	41
中仏教育会	72
チョイバルサン	260,262, 265,267,284,289,292
張学良	26,281
張欽士	79

張継 108  
 張公権 190f,205  
 長江商務報 7  
 張作霖 14,26,272f, 276,281  
 張静江 115ff,124  
 張太雷 79  
 張東蓀 (聖心) 6  
 張聞天 81  
 張耀翔 75  
 褚輔成 210  
 チンギス・ハーン 260,282  
 賃金基金説 161f,167, 173,177,185  
 陳炯明 98,132,141,153  
 陳光甫 208,212f  
 陳長蘅 170,184  
 陳独秀 23f,34,36～60,75f, 79,81,85,97f,103,116, 120,185,242  
 ツイピコフ 291  
 ツェレンドルジ 264f,267  
 Tフォーム 28  
 鄭超麟 40ff,47,54  
 出口勇蔵 142,152,156  
 デミド 292  
 デューリング 180  
 天演論 163  
 田漢 70,72,94  
 デンデブ 262f  
 ドイツ歴史学派 171,178f, 183

トヴァ 280,282,287,300  
 ——人民革命党 280  
 桃園 230  
 鄧演達 51f,56,59  
 陶淵明 226,240f  
 陶希聖 53  
 党軍 14  
 道契 203  
 道庫 206f  
 東征 14  
 唐生智 14  
 鄧中夏 74  
 道徳的予防 177  
 党内合作 11,19  
 党内民主主義 104,118ff  
 党務整理案 22,114  
 ドガルジャブ 262,264  
 ドクソム 262  
 都市型経済 178  
 土地革命 24  
 土地単一税 167  
 取消派 53,55  
 努力週報 227,232  
 ドルジバラム 265  
 トロツキー 41,43f,58, 266,298

**な 行**

ナーツォフ 266f,287,299  
 内債 187～222  
 内防処 263f,270,287,292

内務省 292  
 内蒙古  
 ——国民革命軍 277,281  
 ——国民党 277f  
 ——青年党 281  
 棗 228,230  
 ナンザト 264  
 南昌臨時政治会議 118  
 日本製品ボイコット 175f  
 農村型経済 178  
 農民協会 12,16,24f

**は 行**

ハーディング 149  
 賠償金 193,196,216  
 馬寅初 160,170～181, 205～210,216  
 バヴァーサン 265  
 馬鶴天 285,301  
 馬玉夫 41,54  
 白雲梯 276f,280f  
 馬君武 157  
 橋 225,227f,230  
 馬日事変 25  
 ハスバートル 266  
 八七会議 41  
 バック 179  
 初恋 232ff,250  
 発行準備 189,203  
 バトゥハーン 271  
 バドラハ 289,291

8 は～ほん

バプージャブ	276	武漢臨時連席会議	118	196f,203,208,211f,214
ハヤンヒルワー	267	福明泰 (富明泰)	276f,281	——大学 170
バルガ青年党	277,282	富国策	162	ベルグソン 133
バルダンドルジ	264	藤原鎌兄 (興道庵)	10,77	卞之琳 228,230
ハルハ	279,282f	布施勝治	277	弁訴状 57
反キリスト教運動	67～89	福建人民革命政府	52,60	変通辦法 195～205
半植民地	4	物質建設	131	法意 163
反赤運動	17	ブハーリン	268,273,284, 288,292	包悦卿 277
反赤救国大連合	18	不平等条約廃棄	6,8,11,14	抱合 21,27
潘忠甲	207	フラクション	108	彭述之 39,41f,54,56f
反帝民族主義	8	ブリヤート	262～300	茅盾 224
反動的三角同盟	17	——民族革命委員会	279	保管 192,195,205ff
半年	232ff	ブリュッヘル	281	——委員会 208
反満民族主義	8	フレイザー	246	——銀行 211
汎モンゴル主義	272,282	プレハーノフ	266	北上宣言 6,37ff,45
非基督教学生同盟	77～83	聞一多	224	ボグド・ゲゲン 262f,269
非資本主義的發展	260f, 265,268,288,291	文学研究会	223,242	北伐 22,40,47,109,114ff
非宗教大同盟	74～83	文学雑誌	230	保護貿易主義 176
非宗教論	75,92	分共	25,27	ポッペ 260,270,290f
人的文学	242	文芸上の寛容	243	ポドー 262f
病人	232f	文芸的統一	243	ポヤンゲレル 276,281
貧困の経済学	161	ブンツァクドルジ	263	ポヤンネメフ 265
ファー・イースタン・レビュー (遠東評論)	145	文明進化論	128	ホラル 277,295
馮玉祥	6,274,278,280f	平均地権	9	大—— (第一回) 265
馮至	227,229	平民の文学	242	大—— (第五回) 289
馮自由	17,20,122	ペーカー, オリバー	179	ポリソフ 262
馮文炳 (廢名)	223～252	ペーカー, ジョン	146	ボルシェヴィキ 104,266
フォーセット夫人	182	北京		269
フォーセット, ヘンリー	162	——銀行公会	190,199	ボロジン 18,21,23,104, 112f,124,271,278
		——週報	75,77,242	香港上海銀行 205,207f
		——政府	188f,191,193,	本色教会運動 89

本養工	168
<b>ま 行</b>	
マーフィ	260
マーリン	102
マクサルジャブ	263ff,275
マクリン	168f
マルクス	20,180ff
——学説研究会	74
——教	85
マルサス	160~182
丸善	132f
丸山幸一郎 (昏迷)	75
満洲国	282,291
満洲事変	291
マンドルト	277
宮崎世竜	132
ミル	161,167
民権運動大同盟	76
民権主義	8
民権初歩	132
民権保障同盟	60
民主主義的中央集権制	104f,107,110f,119
民数論	162
民生主義	9,20
民族自決	274,277,283
民族主義	8,214
民族帝国主義	163f
無産者社	34,43,45,47,58f
明珠 (世界日報副刊)	229

メルセー	276,282
メンシェヴィキ	273
蒙疆自治政府	282
毛沢東	21
莫須有 (モーシュイヨウ)	
先生伝	225,228,230,232
莫須有先生坐飛機以後	229f
盛島角房	270,278,296
モンゴル	
——革命青年同盟	262,285ff
——人民義勇軍	263
モンゴル人民革命党	259ff, 267,269,278f,285,287f, 290ff,300
——第四回大会	276
——第八回大会	290
モンゴル人民党	260f,268, 273,276f
——第一回大会	263
——第三回大会	265
——第一次綱領	263,272
——第二次綱領	266
問題小説	223
<b>や 行</b>	
柳田国男	246
ヤンジマー	267
有価証券	189
遊資	198

熊十力	228f
柚子 (ヨウズ)	232ff,237
洋蠶	192,199,203
吉野作造	81f,89
与友人論懷郷書	250
輿論調査	6
四・一二クーデタ	214,280
<b>ら 行</b>	
ライテェル	289
ラインシュ	144,146,157, 163,183
ラインバーガー	146
羅綺園	86
駱駝	229
駱駝草	229
羅章龍	72ff
ラッセル	75,85
ラティモア	260,283f, 286,289
ラトゥレット	144
ラマ教	262,268f,272,283
ラムジャブ公	265
ラング, アンドルー	246
リカード	161,167
李璜	71f,75
リスト	176,178,180
李濟深	23
李石曾	71ff,75,77
李大釗	16,21,74ff, 103,166

10 り〜わ

李丹山	277	ロシア革命	129,131,152
李鳳崗	277	ロシア共産党	279,288
劉仁静	41,45	魯迅	224,235,242f,251
劉宗儀	7	ロソル	292
劉半農	67,69	露中宣言	275
リュウメリン	161	ロツシャー	172,178,185
梁啓超	16,75,84f,163f,183	露蒙協定	275
領券（領用）	201,203		
廖仲愷	101,113,121,157, 168f		
旅欧雑誌	72	YMCA	72,80
旅欧週刊	72	ワグナー	179
李立三	24,41	ワシントン	84
李立中	180	——附加税	206f,211ff
林雲陔	157	我的隣居	232ff
リンカーン	84	我們的話派	43,45
リンチノ	262,265,272, 274,282,287,294,298	我們的政治意見書	42
ルイスクーロフ	266		
ルーベン	260		
黎氏田租論	168		
レーニン	7,29,104,259, 266,272f,286,288,294		
レーリヒ	288		
歴史学派経済学	164		
レッドフィールド	145		
レマント	148		
連省自治運動	99		
連ソ	128f,140,142		
連邦制	272ff		
ロイ	25,286		
劳工神聖	170		

わ 行

## 執筆者紹介

狭間直樹 (はざま なおき)	京都大学人文科学研究所教授
菊池一隆 (きくち かずたか)	大阪教育大学教育学部助教授
石川禎浩 (いしかわ よしひろ)	京都大学人文科学研究所助手
江田憲治 (えだ けんじ)	京都産業大学外国語学部助教授
中村哲夫 (なかむら てつお)	神戸学院大学人文学部教授
森 時彦 (もり としひこ)	京都大学人文科学研究所教授
岡本隆司 (おかもと たかし)	宮崎大学教育学部講師
村田裕子 (むらた ゆうこ)	北海道大学言語文化部助教授
生駒雅則 (いこま まさのり)	大阪外国語大学非常勤講師等

## 一九二〇年代の中国 京都大学人文科学研究所共同研究報告

---

1995年9月 発行

編者	狭間直樹
発行者	坂本健彦
版下作成	こまつデータシステム
印刷	モリモト印刷

---

発行所 汲古書院

〒102 東京都千代田区飯田橋2-5-4

電話 03(3265)9764 FAX 03(3222)1845

---

ISBN4-7629-2483-0 C 3022

©1995

日本の中華民国史研究	野澤 豊編	三、八〇〇円
孫文とアジア―一九九〇年八月国際學術討論会報告集―		
上海孫中山故居蔵書目録	日本孫文研究会編	五、五〇〇円
中国近代政治思想史概説	上海孫中山故居管理処 日本孫文研究会 合編	二、五〇〇円
明清華北定期市の研究	大谷敏夫著	三、二〇〇円
中国近代製糸業史の研究	山根幸夫著	七、五〇〇円
松村潤先生古稀記念清代史論叢	曾田三郎著	一三、〇〇〇円
和田博徳教授古稀記念明清時代の法と社会		一三、〇〇〇円
中国近代史研究入門―現状と課題―	辛亥革命研究会	二〇、〇〇〇円
洋務運動の研究	鈴木智夫著	五、〇〇〇円
近代中国の経済と社会	小島淑男編著	一三、〇〇〇円
中国民族運動の基本構造	菊池貴晴著	三、〇〇〇円
中国第三勢力史論	菊池貴晴著	六、一八〇円
洪秀全の幻想	市古宙三著	五、一五〇円
		二、〇〇〇円